

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホームにこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏之門45番地		
自己評価作成日	令和3年3月8日	評価結果市町村受理日	令和3年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JivyoCd=2393400128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年4月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・クリニック併設のため医療への体制や緊急時の応援体制は速やかにできている ・法人理念「絆～人と人のつながり～を大切に」に基づいて、地域とのつながりを大切にし入居者様、ご家族様や職員同士の接遇の向上に取り組んでいます。また、新型コロナウイルス感染予防のため外出・面会を制限しておりますが、写真や動画にて入居者様の様子をお知らせし、おやつ作りを行い、自分で出来る事はなるべく続けて頂くことを大事にしています。 ・入居者様個々が役割を持ち、季節感のある生活をする事で、笑顔が絶えない楽しみある生活ができるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、同じ建物内に医療機関を併設していることで、医療面での支援が充実していることがホームの特徴でもあり、身体状態が重い方も利用者の状況に合わせて入院対応を行う等、柔軟な支援が行われている。当ホームの管理者については2名の配置が行われており、併設の医療機関との連携や医療面での支援を行い、利用者や家族の安心感につなげている。現状、感染症問題があることで、家族との交流が困難になっているが、当ホームでは職員が家族の自宅に出かけて面談を行う機会もつっており、家族との情報交換を行い、利用者の暮らしぶり等を知ってもらう取り組みが行われている。また、外出支援についても困難な状況が続いているが、例年は、ホーム職員の支援で行きつけの美容院に出かける機会をつくる等、利用者の楽しみにつなげる取り組みも行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・スタッフルーム、共同生活場に提示を行い、常に意識し理念に基づいた支援を心がけている。	ホーム名「に・こ・や・か」から考えた理念を掲げており、管理者からも職員間での理念の共有と実践につなげる働きかけも行われている。また、職員との面談も行いながら、理念の内容の浸透に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出、面会を制限している。入居者様とおやつを作り、また飲み物を選んで頂き喫茶雰囲気を行い、今後地域との交流の場にて繋げる準備をしている。	昨年度までは行われていた、地域のこども園との交流が中止になる等、地域の方との交流が困難な状況が続いている。併設の医療機関が長年にわたり医療機関として開業していることもあり、地域の方にも知られた関係がつけられている。	現状、地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、段階的に交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出、面会を制限し外部(地域)の行事も中止している。今年度は運営推進会議は書面で行い、意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議は書面にて犬山市や民生委員の方、ご家族様にご報告し、意見を頂きサービスの質の向上に努めている。	会議は書面による実施となっているが、会議を開催する際には、法人代表者でもある院長も出席しており、医療面での相談等にもつながっている。また、会議に市担当部署の職員も出席しており、定期的な情報交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・運営推進資料送付させて頂き、意見を頂いております。事故報告や分からないこと等は、市の窓口、電話などで連携を図っている。	感染症問題が続いていることで、市内の介護事業所が集まる連絡会や介護相談員の訪問が中止になる等の影響が出ているが、併設事業所を通じた関係部署との情報交換等、現状で可能な取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・全職員に抑制しないケアを周知徹底するために指針を掲示、内部での身体拘束研修を年2回実施し、意識の向上に取り組んでいます。また、身体拘束委員会があり、代表者も参加している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の見守りが困難でもあるが、利用者がフロア内を自由に移動できるように支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・常に意識し防止に努めている。また、ミーティングで不適切なケアについて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・現在、入居者様1名 日常生活自立支援事業を利用されており、職員が学ぶ機会となっている。今後も職員の理解が深められるように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・管理者より「運営事項説明書」「契約書」の説明を行い、同意のもと入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出、面会の制限、運営推進会議は書面での報告になっています。電話での問い合わせや、ご家族様が洗濯物・オムツ持参された際、必ず声を掛け意見・要望をお聞きし職員間で共有、運営に反映出来る様に努めている。	現状、家族との交流が困難になっているが、LINEを活用した情報交換や家族の自宅への訪問を通じた交流等、可能な範囲で交流が行われている。家族からの要望等については、内容にも合わせて2名の管理者で対応している。また、年2回のホーム便りを作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月1回のミーティング、会議、個人面談等で機会を設け反映させている。	運営法人の安全委員会を通じた毎月の会議が行われており、現場職員からの意見等を把握し、運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による定期的な個別面談も行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・スタッフ全員が自己目標持ち、自己評価をし年2回管理者と面談を行い定期的に意見を話しやすい環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・認知症介護実践者研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・職員が他の事業者の方と接する事がないため、出来ていない。今後、県や市が主催する研修会参加機会を設け、他事業所職員との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時、不安な事、要望をお聞きし対応している。入居後も不安、要望が話せるよう個々に沿ったコミュニケーションを図り、信頼関係を築くように絶えず努力している。また、入居者様同士の会話も傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・意見、要望をお聞きし信頼関係が築けるように努めてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・必要としている事を優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・生活を共にする家族という意識を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・居室に思い出の物や写真を飾り、家族を意識出来る様努めている。 ・家族との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出、面会の制限をさせていただいている。その中で、予約面会実施、場所の考慮、ご家族様で家庭内での感染予防を徹底・理解して頂き外出の期間を設けたり、職員が撮った動画や写真を送っている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者との外出に関する家族からの要望については、感染症対策のお願いをしながら外出できるように支援が行われている。また、併設の関連事業所を通じた入居前からの馴染みの方との交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・レクリエーションや会話に職員も関わる事で、孤立しないよう支援に努めている。 ・気の合う入居者様同士を見極めて、食事の席など配慮を行い良好な関係を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・お見かけした際に、声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・個々の生活リズムを尊重し、思いや意向の把握に努めている。新型コロナウイルス感染症予防のため、ご家族様の差し入れ等は職員が受け取り、入居者様にお渡ししている。遠方のご家族様からは、預り金も対応している。	職員全員で利用者の意向等に関する把握に取り組んでおり、日常的な申し送りの時間を通じて職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスも実施しており、利用者の意向等の検討が行われており、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ご家族様からの細かな情報収集や、ご本人からお聞きしたりする事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のケアでの気づき等を介護記録し、スタッフが現状把握出来るよう努めている。 ・毎月1回のミーティングで入居者様の変化・支援について話し合う機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・定期的や必要に応じて適時モニタリングを行い、介護計画の作成をしている。	介護計画については6か月を基本に見直しが行われており、利用者一人ひとりに合わせた支援内容につなげている。支援経過記録も活用しながら利用者に関する記録を残して変化等の把握を行い、3か月でのモニタリングの実施につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・申し送りや介護記録にて職員間の情報共有を行い実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・個々の状況やニーズに応じた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・クリニック併設の施設のため常に医師、看護師が支援している。	運営母体でもある併設の医療機関との随時の対応や入院等、柔軟な連携が行われており、日常的にも2名の医師による医療面での支援が行われている。また、管理者2名のうち1名が看護師でもあるため、併設の医療機関との柔軟な連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・体調の変化や緊急時など看護師に相談し、情報を共有している。必要時には迅速に受診が行われるよう連携を図っている。また夜間の緊急時にも看護師に連絡、相談する体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・行えている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるように支援が行われており、医療面での連携を深めながら医療機関への入院等も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねており、支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・ミーティングの時間を活用し、緊急時の対応を実践行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災自主検査を毎月1回実施している。 ・避難訓練の実施(年2回)	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や併設事業所とも連携した通報装置の確認も行われている。利用者が建物の3階で生活していることもあり、水害対策にもつながっている。また、併設事業所内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホーム建物の構造上、利用者の避難誘導に困難が予測されるため、併設事業所や医療機関とも連携しながら、利用者の安全を確保する継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・個々に合わせた声掛けや対応をしている。	職員による利用者への対応や言葉遣い等に関する管理者からの注意喚起の取り組みが行われており、職員の意識向上につながっている。また、利用者の意向に合わせたおしゃれの支援や職員の接遇につながる研修の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・コミュニケーションを密にし、日々の会話の中で希望を傾聴している。 ・「～ませんか」と言葉がけを行い、自己決定できるように話を進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・可能な限り個々のペースを大切にしている。 ・行動の制限や強要しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・着る服を選んで頂いている。 ・衣類が汚れたらその都度、替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・職員と会話しながらテーブル拭きをして頂いています。 ・レクリエーションにておやつ作りを取り入れ楽しく行っておられる。	食事については、併設の医療機関の厨房から提供が行われており、ホームで利用者の身体状態等に合わせた食事形態の対応も行われている。ホームでおやつ作りの機会がつけられており、利用者の希望等に合わせた対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・メニューは栄養士が作成し、カロリーの管理を行っている。食事形態は個々に合っているものを見極めながら提供している。 ・食事量、水分量、排便チェック、毎月1回の体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、口腔ケアの言葉がけを行っている。介助が必要な入居者様は職員が一部介助または全介助をしている。義歯装着は夕食後外しポリデントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・日中はなるべくトイレで排泄できるように、誘導や声掛けを行っている。	利用者の排泄状況にも合わせた記録を残すことで、日常的に職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考え、医師、看護師とも連携を行いながら、排泄状態の維持、改善につなげる支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分量をチェックし適度な運動を促しているが、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・入浴予定表はあるが、体調やご本人の意思により柔軟に対応している。	月曜日から土曜日に入浴の準備を行い、入浴を拒む方も入浴日を変更する等の対応を行いながら、週2回の入浴を行う支援が行われている。また、ユニットにより特殊浴槽が設置されていることで、身体状態の重い方の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・空調に配慮行い、個室で安心して気持ち良く眠れるように支援している。 ・日中の活動充実させることで、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬剤の用法、用量、注意点が理解し服薬支援できるように薬剤情報をファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出を制限させて頂いているが、レクリエーション、足浴等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出を制限させて頂いている。	感染症問題が続いていることもあり、利用者の外出が困難になっているが、季節にも合わせてホーム建物の外に出る機会をつくる等、現状で可能な範囲での外出の支援が行われている。また、利用者の意向に合わせた、個別に外出する機会もつくりされている。	ホームでは、個別に外出する機会がつけられているが、多くの利用者の外出が困難になっている状況でもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・入居様は現金を所持していない。 ・ご家族様から預り金という名目でお金を預かっており、必要時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話をお持ちの入居様もあられ、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため、こまめな消毒、掃除を行っている。 ・四季を感じられる飾りを行い、居心地の良い空間作りに努めている。	ホーム内(若宮ユニット)の通路が長いことで、利用者の歩行訓練の機会にもつながっている。また、ユニットにより広さや雰囲気も異なっているが、季節等に合わせた飾り付けや利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気がつくりだされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・共用フロアにソファや椅子があり、そこで座りお話しして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室に写真を飾ったり、使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地の良い空間作りに努めている。	居室には、利用者の入居前からの馴染みの物を持ち込む等、利用者や家族の意向に合わせた居室づくりが行われている。また、居室内の設備に関してもユニット及び居室により異なっており、居室環境に合わせた対応が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・トイレの場所をわかり易く大きな字で表示する等、安全で自立して生活が送れるように動線の確保、環境整備に努めている。		